

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪医科薬科大学第1研究館新築工事	階数	地上2F、地下1F
建設地	大阪府高槻市大学町	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	90人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,340時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2024年5月16日
敷地面積	51,940 m ²	作成者	清水建設株式会社
建築面積	1,013 m ²	確認日	2024年5月16日
延床面積	2,098 m ²	確認者	清水建設株式会社



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>施設老朽化に伴う大学の法医学・病態モデル先端研究施設(仮称)の同一敷地内での新築建替計画。法医学は必要機能を充足しつつ、明るく開かれたイメージの施設づくりとする。病態モデル先端研究施設(仮称)は管理区域の区分、清浄度の性能を確保する。</p>	<p>入院患者・来院者・近隣住民等に対する新築工事の騒音・振動・臭い・工場車両動線等に配慮する。</p>	
<p>Q1 室内環境 グレア対策として、ブラインドに庇を組合せて昼光制御を行う。 化学汚染物質が発生しないよう、内装材はF☆☆☆☆等級の建材を採用している。</p>	<p>Q2 サービス性能 耐震性は、建築基準法に定められた25%増の耐震性を有するものとしている。 非常用発電の設置、受電設備の二重化、熱源種の二重化等も採用し、多岐にわたり災害時のリスク分散を図る。 維持管理しやすい内外装材を採用している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) 敷地境界線から建物を後退させ緑歩道を設けることで、地域活動やにぎわいに貢献する。 大学用途建物に使用されている黄色系を踏襲した仕上とコンクリート打放し面で構成し、既存建物と統一感のある外観としてまちなみに配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー 断熱性能の高い躯体構成及び建材使用による省エネルギー化に配慮する。 各種設備のエネルギー消費量を把握し妥当性の確認や、システム効率の評価を行うことにより性能評価が可能である。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 節水型便器や自動水栓等の採用により、節水に配慮する。 内装のリサイクル材、有害物質を含まない材料を多数採用し、フロン・ハロンを回避する建材も採用している。</p>	<p>LR3 敷地外環境 敷地内に適切な駐車場・駐輪場を確保し、シャトルバス利用による周辺道路への交通負荷抑制に配慮する。 大学・病院全体として有価物の集団回収やゴミドラムによる生ゴミの減容化に努めている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府の重点評価(結果)

Osakafu-新築・既存 2024V1.1

【建物概要】 建物名称		大阪医科薬科大学第1研究館新築工事					
建設地		大阪府高槻市大学町					
用途/区分		学校(大学等)					
【評価結果】	CASBEE 総合評価	★★★★☆				A	
①	CO2削減	★★★★☆				4	
②	みどり・ヒート アイランド対策	★★★★☆				3	
③	断熱性能	★★★★☆				5	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分 評価対象外			評価対象外	
④	エネルギー消費性能	★★★★☆				4	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分 評価対象外			評価対象外	
	非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	★★★★☆			4		
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.8	4
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					4.2	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							